

# 令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

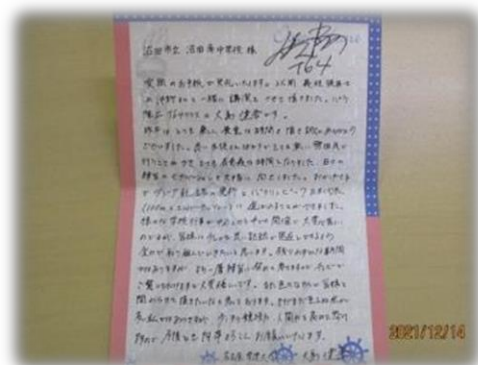
## 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 沼田市 】

学校名【 沼田市立沼田南中学校 】

1 実践テーマ	① II · ③ III · IV · ⑤ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	全校生徒 (男子87名 女子87名 計174名) 第1学年 (男子25名 女子25名 計50名) 第2学年 (男子35名 女子35名 計70名) 第3学年 (男子27名 女子27名 計54名) 教職員 (27名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 (運動会) ③ その他 (特別講演会、応援フラッグの作成、校舎内の環境整備) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックについて学習することで、オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を深めるとともに、オリンピズムについて知り、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントを推進する。
5 取組内容	【大島健吾選手との交流】 ○東京パラリンピック出場報告の手紙 昨年度オリンピック・パラリンピック特別講演会で講話をいただいたパラ陸上競技の大島健吾選手から東京パラリンピック出場の報告の手紙が届いた。2・3年生にとっては昨年の講演会で会った人がパラリンピックに出場することもあり、関心が高まった。



### ○応援フラッグの作成

報告の手紙を受けて、沼田南中として大島選手を応援することができないかと考え、生徒会本部と体育委員会が中心となり、応援フラッグを作成した。



### ○大島選手の競技観戦とパラ陸上競技についての学習

パラ陸上競技の種目やクラス分けについて基礎的なものを学習した。また、大島選手の競技している動画を視聴し、大島選手以外にも様々な選手が出場していることを学んだ。

### ○東京オリンピック・パラリンピック特別講演会

昨年度「パラリンピックに出場したらその報告をしに来ます。」との約束通り、今年度も講演会に来ていただいた。パラリンピックの話を中心に、選手村の部屋や食事の話、パラリンピック代表選手との交流の話など実際に体験した人ではないと分からないような話をしていただいた。また、獲得した銅メダルを実際に見せていただいた。



### ○体験交流会

オリンピック・パラリンピック特別講演会の後に大島選手のご厚意で実際の走りを見せていただけることとなり、本校生徒と100m走の対決を行った。実際に世界の舞台で戦ったアスリートと一緒に走るという貴重な体験ができた。



### 【学校行事】

#### ○運動会

沼田南中学校の伝統となってきた「南中聖火リレー」を今年度も行った。昨年同様に校内での実施となったが、生徒たちはオリンピック・パラリンピックを意識して実施することができた。また、「東京五輪音頭2020」も継続して実施し、学校全体で取り組んだ。



【掲示物】



6 主な成果

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、活動を制限せざるを得なかったが、昨年度の取組を継続し、工夫しながら取り組むことができた。
- 3年目の取組になったので、今までの学習によるオリンピック・パラリンピックへの理解がより深まってきた。特にパラリンピックについてはこの学習に取り組むまではあまり関心がなかった生徒も関心をもつことができた。
- 保健体育の授業だけではなく、各教科等の授業や行事を通して、日常的にオリンピック・パラリンピックに触れることができ、生徒が身近に感じることができた。

～生徒たちの感想～

【パラリンピック学習を通して】

- ・パラ陸上競技には細かいクラス分けがされていることを初めて知った。大島選手のT64クラスのように数字で障害の種類や重さが分かるようになっているのはすごい。
- ・パラリンピックを初めて見たが、迫力があってすごいと思った。
- ・ユニバーサルリレーが面白かった。いろいろな障害をもった人たちが協力しながらリレーを繋いでいてすごいと思った。銅メダルを取れたのも感動した。

【オリパラ特別講演会・体験会を通して】

- ・選手の生活や選手村の様子などなかなか知ることのできないことが聞いて楽しかった。選手村の料理は世界中の料理があるそうなので食べてみたい。
- ・本物の銅メダルを見せてもらっただけでなく持たせてもらえて嬉しかった。
- ・大島選手はすごく速かった。義足の反発をうまく使っていてすごい。
- ・実際にパラリンピックに出た選手と話をしたり、一緒に走ったりすることができてとても貴重な経験になった。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)	昨年度までの実践によって、積み重ねたオリンピック・パラリンピックの学習を活かし、実際にパラリンピックを応援したり、一緒に競技したりすることで、よりオリンピック・パラリンピックに興味を持ち、関心が高まるようにした。
8 主な課題等	<p>○新型コロナウイルス感染予防対策の関係から、昨年度に引き続き保護者や地域、学区内の小学校との連携が薄くなってしまった。ICT 機器を利用したリモート形式の交流など、新たな工夫も考えられるとよい。</p> <p>○オリンピック・パラリンピックが保健体育の学習だけにとどまるのではなく、他の教科学習、生徒指導など様々な教育活動に取り入れていくことで、オリンピック・パラリンピックが目指すオリンピック・パラリンピック・ムーブメントに迫ることができると思う。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>○地域・保護者との連携を強化していく。新型コロナウイルス感染防止の対策を講じながら、連携の取り方を工夫していきたい。</p> <p>○「東京五輪音頭」は南中学校の伝統として、先輩が新入生に伝える形ができたので、来年度も継続していきたい。</p> <p>○2年間に及ぶ大島選手との交流を活かし、パラリンピックに関する関心を高めていきたい。</p>